

タックスペイヤーとして 財政を考えよう

東京都港区立朝日中学校 仲村秀樹

はじめに

大項目(2)「国民生活と経済」の中項目イ「国民生活と福祉」の学習は、次の3点の学習内容を押さえる必要がある。

- ① 「租税の意義と役割」
- ② 「納税の義務」
の2つについて理解すること。
- ③ 「限られた財源の配分」
について考えること。

そして、この学習を通して、次の3点の財政の果たす機能(役割)を捉えさせなければならない。

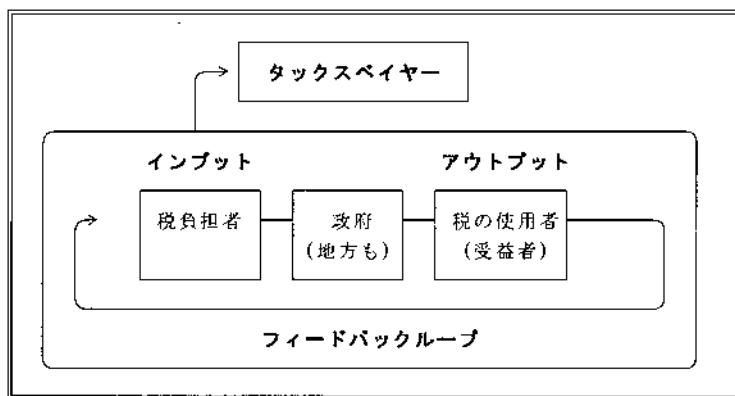
- ① 所得の再分配の機能
(おもに社会福祉の向上など
に関すること)
- ② 資源の最適配分の機能
(おもに社会
資本の整備など
に関すること)
- ③ 景気調整の機能
(おもに景気対
策に関すること)

しかし、これまでは、歳入、歳出、財政、社会資本の整備、社会保障の充実な

どという学習内容をそのまま順番に学習するという学習指導が多く行われている。これでは、「タックスペイヤー(税負担者・受益者という認識を持つ主体者)として国の財政を考える」という視点に欠け、歳出(税の使われ方)を監視し、よりよい財政のあり方を納税者として、考えさせることが不十分である。

そこで、以下のように学習内容の構成を変えることで、財政は、「どこか遠くの誰かが考えればいい。」という学習ではなく、「自らの問題と捉えなければならない。」学習であることを踏まえさせることができる。

つまり、税負担者(インプット)は、税の受益者(アウトプット)であり、これは入口と出口の関係で密接に関連しているものである(フィードバックループ)と捉える必要がある。このようなタックスペイヤーとなる国民としての資質の基礎を育成しなければならない。



2 教科書の特性を生かした授業構成

教科書の第2部4章「納税者として国の経済を考えよう」では、「1 私たちの生活と財政」において、生活と財政、経済主体としての財政の役割などを概観し、経済の循環を学習する。次に、「2 国の支出と収入」を大まかに捉えた後、「3 社会保障と私たちの生活」、「4 社会資本の役割」と、歳出の大まかな意味内容を捉えるようになっている。これらを踏まえたうえで、「5 納税者として国の財政を考えよう」を学習し、さらに、最後に「国の予算案を決めてみよう」で学習のまとめをするという構成になっている。

そこで、教科書の特性を生かし、タックスペイヤーとして財政を捉えさせるため、ディベート学習を行う。そして、教科書の内容をディベートのリサーチの際の重要な資料として活用することとする。さらに、学習のまとめとして、「国の予算を決めてみよう」に取り組ませることとする。

3 学習指導の流れ

(1) 単元名

大項目 (2) 「国民生活と経済」

中項目イ「国民生活と福祉」

(2) 本単元の目標

- ① 国民生活と福祉の向上をめざす財政のあり方を考える。また、国などの財源が無限でないことに気づき、限られた財源の望ましい配分のあり方について考える。
- ② 財政の意義と役割について理解するとともに、タックスペイヤーとして税金の使い方に関心をもつ。

③ 福祉の向上を図るうえで、生活に関連した社会資本の充実が必要であることに気づく。

④ 少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、これからの福祉社会のめざすべき方向について考える。

⑤ 環境保全に関する問題の解決が国や地方公共団体の重要な課題であるとともに、個人や企業が責任ある行動をとる必要があることに気づく。

⑥ ディベート学習により、資料活用の技能を高め、国民生活と福祉について多面的・多角的に考察する。

(3) 論題

① A 「すべての公園に中高生の遊べるスペースを設けるべきである。」

② B 「福祉目的税として消費税率を上げるべきである。」

③ C 「環境税を導入すべきである。」

(4) 論題と配慮事項

① 論題の設定と順番

「社会資本の整備」に関して

→ A 「すべての公園に中高生の遊べるスペースを設けるべきである。」

「社会保障の充実と福祉の向上」に関して

→ B 「福祉目的税として消費税率を上げるべきである。」

「公害の防止と環境の保全」に関して

→ C 「環境税を導入すべきである。」

* 論題が、タックスペイヤーのアウトプット（歳出部分）であることを踏まえ、論題の順番を上記A～Cとする。

② ディベート上の配慮事項

- i. 実現可能性の検討。財政的に実現が可能かどうか、インプット（歳入）の検討で、財政赤字の資料等も検索させる。

- ii. 要求の現実性の検討。国民の要望などがあるのかなどの実態調査を活用し、アウトプット（税の使用者、受益者）部分から検討させる。
- iii. 具体性の吟味。架空の空論でなく、どこをどのようにするのか検討させる。環境税の場合には、具体的な負担者は誰かなども検討させる。
- iv. 費用負担の検討。増税を国民は受け入れるか、フィードバックループとして検討させる。
- v. アフターディベートとしてタックスペイヤーとしての再検討をさせる。「国の予算を決めてみよう」に取り組みさせる。

(5) 指導計画

時	内容・生徒の学習活動	指導上の留意点	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとでディベートの論題と分担を選び、クラスで調整する。 ・資料を探す相談。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い歳出の使途、適度な歳入のあり方について、仮説設定ができるよう、援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的にワークシートに取り組み、班での話し合いに参加しているか。(関心・意欲) ・歳入や歳出の動きを知ることができたか。(知識理解)
2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベート準備 各フォーマットで発表する原稿作りと、フォーマット全体のレジュメ作り。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反対意見論破のためと班の協力による学習効果の向上をめざすためのディベーターの決め方をする。インターネット、統計資料など、資料活用の援助をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの資料を収集、活用することができたか。(資料活用) ・ディベートでの作戦を考えているか。(思考判断)
5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベート準備 ・ディベート実施 <p>フォーマット</p> <p>立論 賛成・反対(各4分) 作戦タイム(4分) 反論 賛成・反対(各4分) 質疑応答(肯定・否定 各1分) 作戦タイム(3分) 最終弁論 賛成・反対(各4分) 判定 (4分) 教師の講評(7分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間に1つの論題を扱う。上記①②③の順番で行う。 ・質疑応答が活発に行われるようにする。 ・歳出の、ある項目の予算を減らして他をふやすことなども、考える余地があることを示す。 ・歳出すべてをとらえ、改善すべきことはないか、考えるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フロア側として、よく聞き、自分の考えを持つことができたか。(資料活用、思考判断) ・発表し、自分の考え深めまとめることができたか。(思考判断)
8	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめのワークシートを行い、さらなる課題を意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習したことをもとにさらに思考を深め、課題意識をもつよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い財政を実現するために公正に思考を深め、さらに課題を考える。(関心・意欲、思考判断)

ディベート判定表 (フロア一用)
3年()組()番氏名()

ディベートのテーマ ()
*メモ

賛成側	反対側

*よく分かった、分からなかった点や疑問に思った点、新しく知ったことなど。

*感想

ディベート作戦表
3年()組()番氏名()

ディベートのテーマ ()
*開けた内容をディベートのどの場面で使用すべきか作戦を立てましょう。また、だれがどのように発言すべきかなどの作戦も立てよう。

① 立論で使う内容 担当者名

--	--

② 反論で使う内容 担当者名

--	--

③ まとめで使う内容 担当者名

--	--

自己評価カード (ディベーター一用)
3年()組()番氏名()

評価項目	○	×
1・発言回数は適当でしたか。		
2・発言方法(身振り・視線・早さ・明瞭さ・分担)はよかったですか。		
3・矛盾をつきましたか。		
4・反論できましたか。		
5・資料を活用することができましたか。		
6・誤りを認めることができましたか。		
7・仲間割れはしませんでしたか。		
8・ルールは守れましたか。		
9・準備はみんなでできましたか。		

*総合すると 5 4 3 2 1

*熱心にディベートに参加した人は誰ですか。()

理由

*ディベートを終えた感想

ディベーターマニュアル
3年()組()番氏名()

ディベートを進めるためには、その論拠となる資料集めが大切です。そこで、これらの資料を集める方法を示しますので参考にしてください。その他にもいろいろ考えられると思います。自分自身の目で調べてみましょう。

① 図書館を利用する方法
区立館にはあなたの学校の図書館、区立や市立の図書館、国会図書館、私設図書館があります。また、映像資料としては各区や市のフィルムライブラリーで映画フィルムやビデオの貸し出しをしています。その他、行政機関の図書館を利用するのもいいでしょう。(通商産業省の本省など)
② 書店で探したり、知人から借りる。
③ 目的の本がなかったら、書店の人に言って取り寄せてもらう。または、図書館を借りて探さないでしよう。

*出版物情報については、
・トーン (東京出版販売) ・広報課 (電話03-3269-6111)
・日本出版販売・広報課 (電話03-3233-1111)
・日本書籍出版協会 (電話03-3268-1302)
・情報の本 「マスコミ電話帳」 宣伝会議編 (電話03-3543-4501)
「現代人のための情報源大百科」 講談社 (電話03-3945-1111)

④ 政府行政サービスセンター
⑤ 新聞社のニュース・サービスを利用する。
・社会情報研究資料センター (電話03-5841-5906)
・朝日新聞社産者相談室 (電話03-3545-0131)
・読売新聞社産者相談室 (電話03-3242-1111)
・毎日新聞東京本社調査情報サービスセンター (電話03-3212-0291)
・日本経済新聞社データバンク局 (電話03-3270-0251)

⑥ 関係機関の広報室を利用する
・経済省、経済産業省、法務省、外務省、厚生労働省、
⑦ インターネット
・インターネットにアクセスしてみよう。
⑧ 参考図書
岩波ブックレット
少年頃日年鑑
⑨ 新聞記事

*** 話し合っているときのマナー**

1 質問内容を書き出し、整理しておく(電話をする前に)。
2 電話を掛けて、まず、自分の名前を名乗ります。「私は〇〇区(市)立△△中学校3年の□□〇〇です。」「今お時間はよろしいでしょうか。」「よい場合は続けます。」
3 次に、用件を伝えます。「〇〇について調べているので係りの方と話したいのですが、よろしくお願ひします。」
4 係りの方につながります。そこで、②と③を繰り返します。
5 質問内容にしたがって必要事項を伝えます。
6 場合によっては、必要書類を送ってもらう依頼もします。あらかじめ、だれかの自宅の住所をメモしておくとい(電話番号も)。
場合によっては、FAXを送ってくれることもありますので、学校のFAX番号は、
〇〇〇-〇〇△△-〇〇□□です。
7 最後に、心を込めてお礼を言います。「ありがとうございました。」

4 授業実践の成果

(1) 目標の達成と学習方法について

① 目標①②「望ましい財政のあり方と限られた財源の望ましい配分について考える。」、「財政の意義と役割について理解し、タックスペイヤーとして税金の使い方に関心をもつ。」について

「限られた財源の望ましい配分に気づくことができた」については、各ディベートを終えた後に、目標を達成した生徒が多いことがわかった。また、将来の納税者として主体的に、インプット（歳入）とアウトプット（歳出）の両面を考え、「タックスペイヤーとしての意識」を高めることができたと考ええる。

たとえば、A君は、ディベート前の意見では、「幼児が遊ぶ場所があるのだから中高生が遊ぶ場所があってもいい、自分自身もつくってほしいと思う。」と公園に中高生の遊べるスペースをつくることに肯定的であった。

しかし、ディベート後の意見では、財源に限りがあることに気づき、税金の無駄遣いをなくし、最小限の費用で中高生用のスペースをつくってほしいという立場に変わっていった。

さらに、アフターディベート後の最終的な意見では、「中高生用のスペースはあってほしいが、財政不足のために難しいだろう。また、外で遊ぶ中高生だけでは財政支出をする対象が狭すぎるから、現在でもボール遊びができる公園で我慢しよう。」というように、社会資本の充実の必要性に気づきながらも、財政支出の優先順位を考えて、否定的な立場に変容した。これは、ディベート学習の過程で、「限られた財源の中での選択」というこ

とに気づいたためと考えられる。

② 目標③④⑤「社会資本の充実が必要であることに気づく。」、「これからの福祉社会のめざすべき方向について考える。」、「環境保全に関する問題の解決の重要性に気づく。」について

論題Aでは、「社会資本の充実が必要であることに気づくことができたか。」、論題Bでは、「これからの福祉社会のめざすべき方向について考えることができたか。」、論題Cでは、「個人や企業が責任ある行動をとる必要があることに気づくことができたか。」についても、目標を達成した生徒が多いことがわかった（詳細は省略）。

③ 目標⑥「ディベート学習により、資料活用を高め、国民生活と福祉について多面的・多角的に考察する。」について

ディベートを通して主体的な追究や多面的・多角的な考察を行い、それぞれがディベーターとして追究した課題に対しては、とくにより理解が深まったと考えられる（詳細は省略）。

④ 三連続ディベートについて

本単元では、三連続ディベートを通して学ぼうという学習方法をとった。その結果、前述したように目標①について成果がみられた。さらに、3回のディベートを積み上げていく中で、この目標に対する意識の高まりがみられ、2回目、3回目では、限られた財源の望ましい配分に気づくことができていない生徒が、明らかに減少していった。したがって、三連続ディベートを通して学ぼうという手法をとったことの有効性が認められたと考える。